



鈴小だより 30年度1月

神戸市立鈴蘭台小学校 <http://www2.kobe-c.ed.jp/szr-es/>

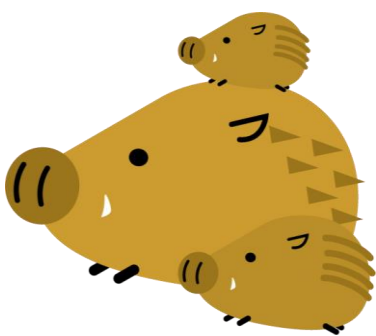
「あけましておめでとうございます。」

1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われていますが、本当に日々過ぎていくのが早く感じられます。今年度も、あと3か月となりました。子供たちも、新年度の4月当初より大きく成長してきました。これも、保護者の方々や地域の皆様のおかげだと思っています。ありがとうございます。

あの阪神淡路大震災から24年が経ちました。下から突き上げるような揺れを感じ、布団から飛び出したことを今でも忘れられません。そして、少し揺れが収まり、家から外に出ると友人家族も外に出ており、言葉を交わし、その場にたたずんでいました。出勤時には、信号機がついておらず、たくさんの車が我先にと急いでいました。後にテレビで見た市街地、高速道路が崩落、長田区の街並みが炎に包まれている様子などに、自然災害の恐ろしさを痛感しました。

当時、私は西区のある小学校に勤務していました。その地域は一部水道管が破裂したため、給水車に来てもらい水を配ったのを覚えています。また、被害の大きかったところに支援をと、いろいろな団体が炊き出しに来てくれました。あの震災では、多くの方々からの励ましの言葉や支援をしていただきました。とても心強く感じたのと同時に、感謝の気持ちでいっぱいでした。多くの支えがあってこそ、この復興を遂げられたものと思います。

昨年も西日本豪雨をはじめ多くの自然災害が発生しました。そして多くの方々が被害に遭われました。そこにはたくさんのボランティアの方々が集まり、被災された方々を支援される様子が報道されました。また「スーパーボランティア」の尾島春夫さんがクローズアップされました。本当に心温まる気持ちになりました。このように多くの市民ボランティアの活躍が大きく取りざたされ始めたのが阪神淡路大震災でした。「ボランティア元年」とも言われています。



「感謝」を表す言葉の一つに、「ありがとう」という言葉があります。漢字で表すと「有難う」です。読んで字のごとく、めったにないことを表す言葉です。この言葉の由来は、諸説ありますが、「神」をたたえる言葉であったと言われています。室町時代には、「仏」の教えを聞いて、感激する意味で用いられていました。そして、めったにないことを「感謝」する意味としての言葉で使われたのが、江戸時代以降だといわれています。「神仏」に対して使われていた言葉が、人に対してのお礼の言葉として使われるようになってきていることに、言葉の素晴らしさを感じます。

人は「生きている」とよく言いますが、本当は、多くの隣人によって「生かされている」のではないのでしょうか。そのことに「感謝」して過ごしていきたいと思っています。

校長 須田 啓一